

太平洋クロマグロの資源状況と 管理の方向性について

2014年3月
水産庁

1. 北太平洋まぐろ類国際科学委員会(ISC)クロマグロ作業部会

日時： 2014年2月17～22日

場所： ラホヤ(米国)

検討事項：

1. 親魚資源量・加入量評価のアップデート
2. 資源保護・回復のための管理提言



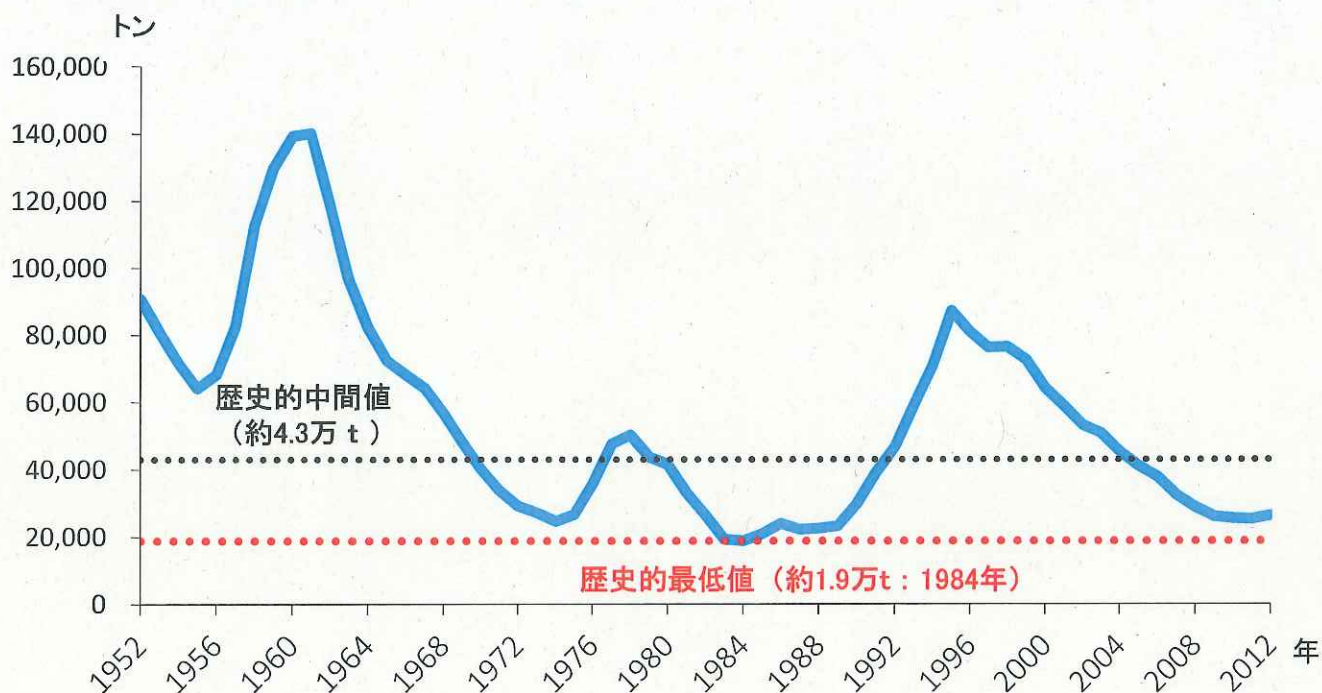
※ISCとは

- ・北太平洋におけるまぐろ類資源の科学的評価を目的として設立された国際科学機関。
- ・中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)に対して科学的情報及び提言を提供。

※作業部会報告書は、3月10日現在公表されていないため、以降の内容は、全て日本の研究者が計算した結果に基づき作成。

親魚資源量(SSB)の動向

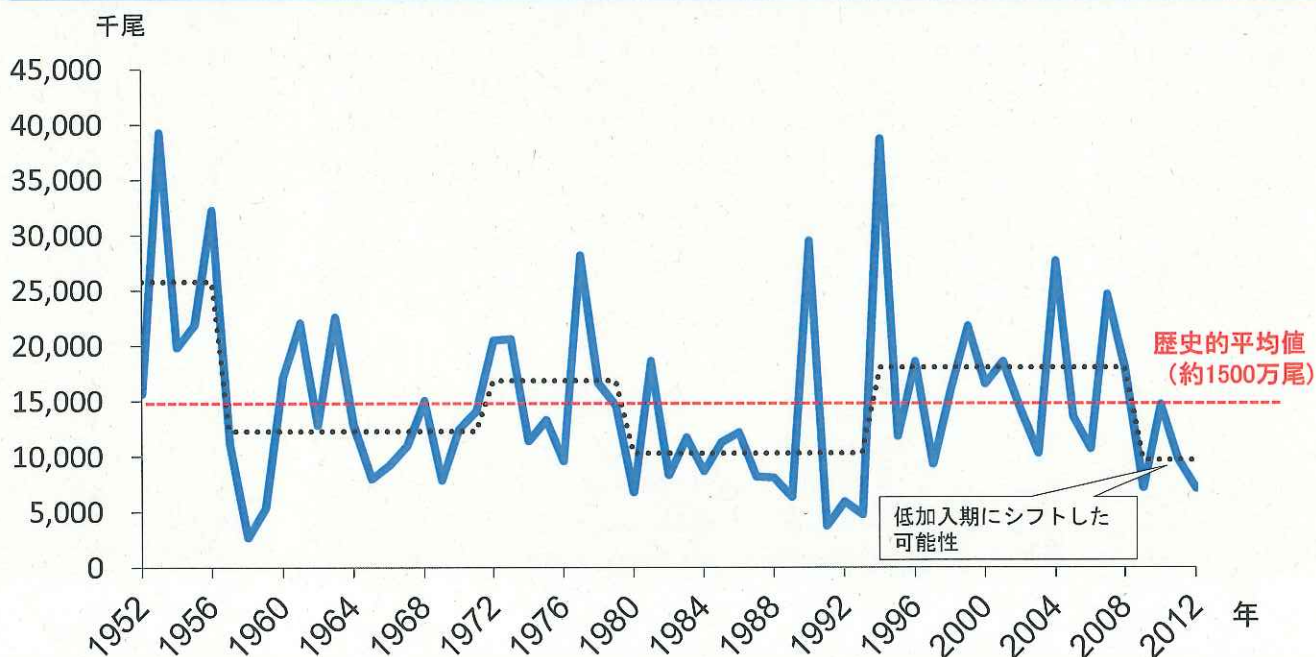
2012年の親魚資源量は26,324tで、歴史的最低水準(約19,000t)付近



2

未成魚の加入(発生)状況

2012年の加入は、約712万尾で、過去(61年間)8番目の低水準。直近5年間の平均値も、過去平均以下。



2

3

親魚資源量の将来予測 ①

現行(2014年)のWCPFC及びIATTCの規制(シナリオ1)のほか、6通りの追加規制を実施した場合の親魚資源量の回復状況を試算。

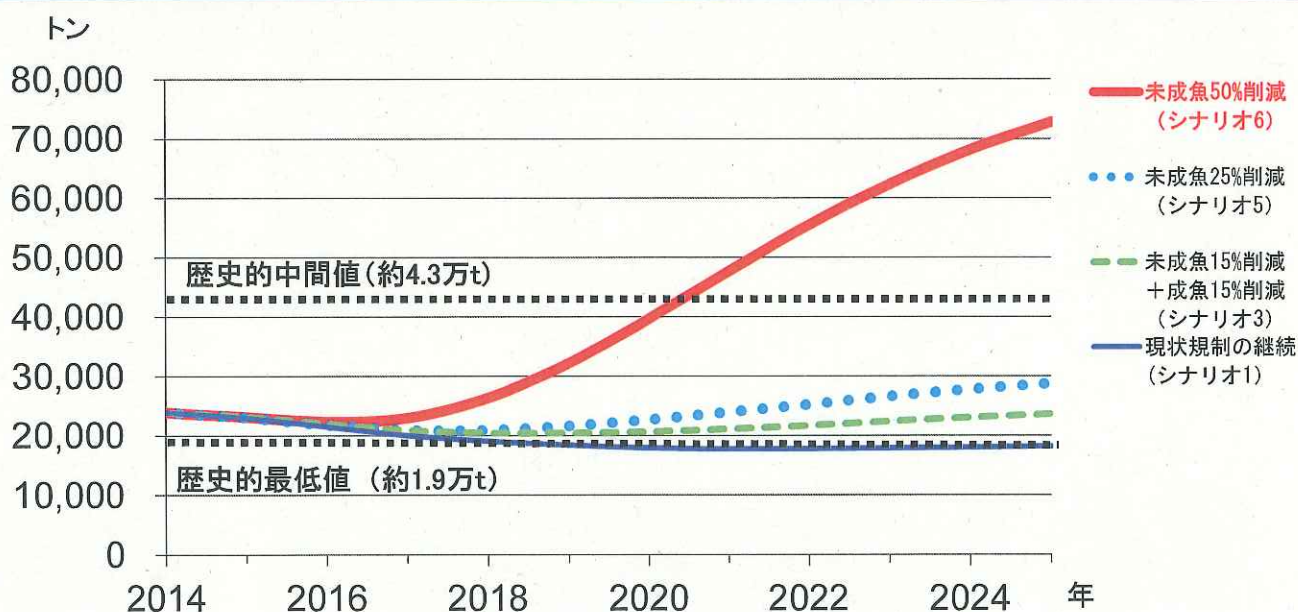
シナリオ	中西部太平洋			東部太平洋
	漁獲努力量 (漁獲死亡率)	未成魚※漁獲量 (対2002-04年平均比)	成魚漁獲量 (対2002-04年平均比)	全漁獲量
1	2002-04年平均	15%削減		5,500トン
2	2002-04年平均	15%削減	15%削減	5,500トン
3	2002-04年平均	15%削減	15%削減	4,675トン
4	2007-09年平均	15%削減		4,675トン
5	2002-04年平均	25%削減		4,125トン
6	2002-04年平均	50%削減		2,750トン
7	2002-04年平均 平均比15%削減	25%削減		4,125トン

※ 未成魚=30kg未満

4

親魚資源量の将来予測 ②

未成魚の50%削減(シナリオ6)以外は、10年以内に歴史的中間値まで回復せず



- ・上記のグラフは、シナリオごとの6千回のシミュレーション結果の中央値であり、計算結果の半数はこれよりも低い。
- ・加入レベルは、当初10年間は80年代の低レベル、その後は過去平均レベルを想定。
- ・2014年から10年以内(2024年まで)に歴史的中間値を達成する確率は、未成魚25%削減の場合16%、未成魚50%削減の場合85%。

親魚資源量の将来予測 ③

ポイント

1. 低加入が継続する場合、現行のWCPFC・IATTCの規制措置(シナリオ1)では、親魚資源の回復は期待できない。
2. 低加入が継続する場合、**未成魚を50%削減(シナリオ6)**した場合のみ親魚資源が回復。
3. 上記2の場合、親魚資源は、10年以内に85%の確率で歴史的中間値(約43,000トン)まで回復する見込み。

6

想定されるISCからの管理提言(Conservation Advice)

- 漁獲死亡率及び未成魚漁獲量の大幅な削減。
- 未成魚の加入動向を迅速に把握するため、加入のモニタリングを強化。

2. 日本としての資源管理の方向性①

「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」(平成22年5月11日農林水産省)及び現在の資源状況を踏まえ、

- 太平洋クロマグロの親魚資源を10年以内に歴史的中間値まで回復させるべく、
- 当面の間、未成魚漁獲量の2002-2004年平均レベル(漁獲実績)からの半減に向けて、国際的・国内的な対応を進めることとしたい。

【参考】「太平洋クロマグロの管理強化についての対応」(平成22年5月11日農林水産省)(抄)

2. 今後の対応

(1) 基本的な対応

未成魚の漁獲を抑制・削減し、大きく育ててから漁獲することにより、太平洋クロマグロの資源管理を推進します。また、資源変動の大きい本種の親魚資源量が中長期的(5～10年)に適切な変動の範囲内に維持され、これまでの最低水準を下回らないよう管理していきます。

8

2. 日本としての資源管理の方向性②

国際対策

- IATTC・WCPFCにおいて適切な保存管理措置(未成魚漁獲量の半減等)が採択されるよう、我が国がリーダーシップを一層発揮。

国内対策

- 2015年から、未成魚漁獲量の2002-2004年平均レベル(漁獲実績)からの半減に取り組む。
- 具体的な取組手法等は、広域漁業調整委員会等において検討。
- **漁業種類別の削減方法**
 - ① まき網： 漁獲量上限規制を強化
 - ② 曳き縄、定置網等の沿岸漁業：
本年4月導入の承認制をベースに漁獲量モニタリングのシステムを構築し、漁獲を抑制等
- 削減幅は、原則3年ごとに行われる資源評価の結果を踏まえ、適宜見直し。

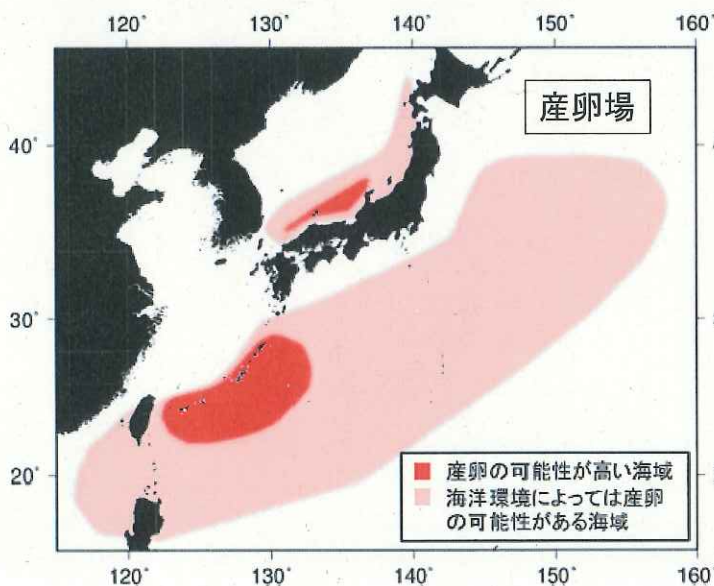
9

(参考資料)

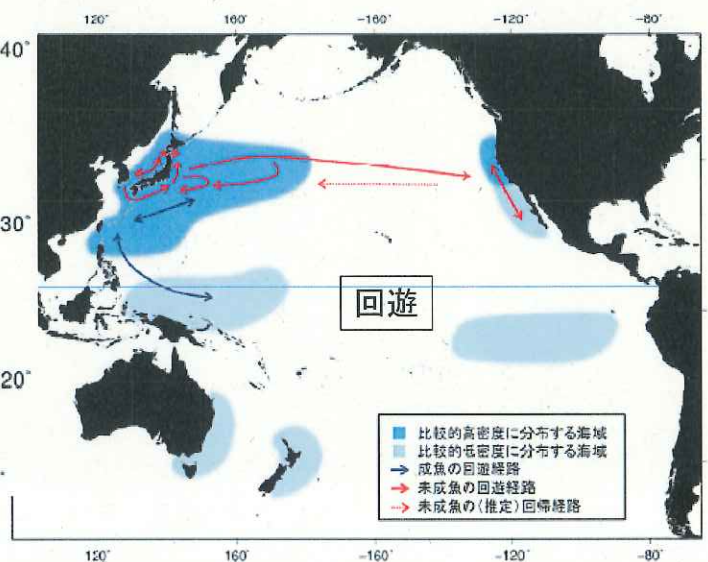
10

太平洋クロマグロの産卵場と回遊

- 産卵場は、日本水域が中心（南西諸島から台湾東方沖、日本海南西部）
- 未成魚の一部は、太平洋を横断して東部太平洋まで回遊（メキシコによって漁獲される）



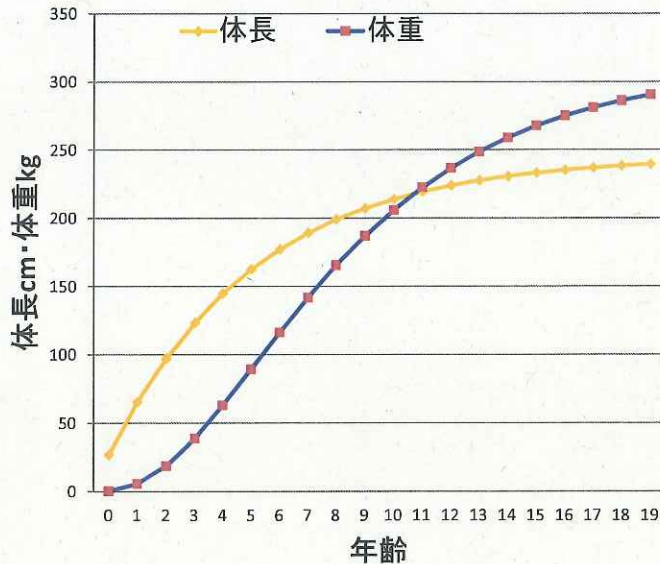
産卵期： 日本南方～台湾東沖 4～7月
日本海 7～8月



11

太平洋クロマグロの体長・体重

- 3歳で一部が成熟開始、5歳で全てが成熟
- 体長1m程度では未成魚



- 0歳: 30cm 0.4kg
 - 1歳: 66cm 5.7kg
 - 2歳: 97cm 19kg
 - 3歳: 124cm 39kg (全体の20%が成熟)
 - 4歳: 145cm 63kg (全体の50%が成熟)
 - 5歳: 163cm 90kg (全体の100%が成熟)
- (10月時点※)

※ 南西諸島での産卵時期は5～7月

12

太平洋クロマグロの国別漁獲状況

トン

年	日本		韓国		台湾		メキシコ		米国		その他		合計		総計
	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	
1994	6,165	9,021	50			559	51	14	822	232		2	7,088	9,828	16,916
1995	20,740	6,350	821			337	10	1	918	46		2	22,490	6,736	29,226
1996	9,480	4,527	102			956	3,482	218	4,470	279		4	17,534	5,985	23,519
1997	13,610	5,242	1,054			1,814	287	81	1,984	546		14	16,935	7,697	24,632
1998	7,049	4,142	188			1,910	1	0	1,923	542		20	9,161	6,614	15,775
1999	10,624	12,004	256			3,089	2,239	165	722	87		21	13,841	15,366	29,207
2000	15,445	9,132	2,401			2,782	2,902	216	1,024	72		21	21,772	12,223	33,995
2001	10,251	3,960	1,186			1,843	767	97	606	89		50	12,811	6,039	18,850
2002	9,309	4,877	932			1,527	1,366	344	555	162		66	12,162	6,976	19,138
2003	7,951	2,455	2,601			1,884	2,635	619	343	92		60	13,529	5,110	18,639
2004	6,785	7,314	773			1,717	6,375	2,519	40	20		77	13,973	11,648	25,620
2005	14,796	6,872	1,318			1,370	3,778	765	237	51		27	20,129	9,084	29,213
2006	9,828	4,350	1,012			1,150	8,791	1,136	89	9		24	19,719	6,670	26,389
2007	8,515	6,191	1,281			1,411	3,227	920	45	13		24	13,068	8,559	21,626
2008	11,879	5,836	1,743	123		981	3,706	701	75	19		24	17,402	7,685	25,087
2009	9,701	4,896	901	34		888	2,709	310	525	66		24	13,837	6,219	20,055
2010	5,500	2,787	1,128	68		409	5,731	2,015	95	28		24	12,454	5,331	17,785
2011	9,127	4,659	670	1		316	1,866	865	414	205		24	12,078	6,069	18,147
2012	3,815	2,468	1,406	16		213	5,280	1,388	516	144		24	11,017	4,253	15,270
02-04年の平均	8,015	4,882	1,435			1,709	3,458	1,161	312	91		67	13,221	7,911	21,133
02-04年の85%(▲15%)	6,813	4,150	1,220			1,453	2,940	987	266	78		57	11,238	6,725	17,963
02-04年の50%(▲50%)	4,007	2,441	718			855	1,729	580	156	46		34	6,611	3,956	10,566

※韓国及び台湾の2002年以降のデータは、それぞれのISCへの提出データ。韓国及び台湾の2001年以前のデータ、並びに日本、メキシコ、米国及びその他については、国際水産資源研究所による推定値。

※日本の未成魚・成魚の区分については、体重の場合、30kg未満=未成魚、30kg以上=成魚と区分、銘柄の場合、「ヨコワ」と「メジ」は未成魚で、「マグロ」や「シビ」は成魚と区分。

13

我が国の成魚・未成魚(30kg未満)別漁獲状況

トン

年															曳き縄 ・手釣り	竿釣り	定置網		その他		漁業種類 合計		総計					
	大型魚を漁獲するまき網				まき網全体		はえ縄(遠洋・近海)				はえ縄(沿岸)		はえ縄全体															
	太平洋		日本海				小型魚を漁獲 する まき網		赤道以北															赤道以南				
未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚	未成魚	成魚					
1994	126	6,525		694	786		912	7,219		238		20		968		1,226	4,111		162		637	522	344	54	6,165	9,021		15,186
1995	36	4,801		496	13,575		13,611	5,298		107		10		571		688	4,778		270		1,584	266	487	99	20,740	6,350		27,091
1996	2,489	2,601		450	2,104		4,593	3,051		123		9		778		909	3,640		94		898	251	255	315	9,480	4,527		14,008
1997	2,823	2,606		708	7,015		9,838	3,314		142		12		1,158		1,312	2,740		34		666	138	333	478	13,610	5,242		18,852
1998	719	1,670		326	2,676		3,395	1,995		169		10		1,086		1,266	2,876		85		403	471	291	409	7,049	4,142		11,191
1999	1,293	9,747		579	4,554		5,847	10,326		127		17		1,030		1,174	3,440		35		902	195	399	309	10,624	12,004		22,628
2000	900	6,546		747	8,293		9,193	7,293		121		7		832		959	5,217		102		701	424	233	456	15,445	9,132		24,577
2001	586	2,313		239	4,481		5,068	2,552		63		6		728		797	3,466		180		1,241	125	297	486	10,251	3,960		14,212
2002	193	3,131		599	4,981		5,174	3,729		47		5		794		846	2,607		99		1,008	92	422	210	9,309	4,877		14,186
2003	183	203		571	4,812		4,995	774		85		12		1,152		1,249	2,060		44		648	191	205	241	7,951	2,455		10,407
2004	143	2,692		2,100	3,323		3,465	4,792		231		9		1,616		1,855	2,445		132		660	235	82	432	6,785	7,314		14,099
2005	155	185		3,694	8,783		8,938	3,879		107		14		1,818		1,939	3,633		549		1,509	673	167	381	14,796	6,872		21,668
2006	1,352	280		2,012	5,236		6,588	2,292		63		11		1,058		1,131	1,860		108		991	430	280	498	9,828	4,350		14,178
2007	124	718		2,123	3,875		3,998	2,841		83		8		2,004		2,096	2,823		236		1,142	361	316	893	8,515	6,191		14,706
2008	1	0		3,028	7,192		7,193	3,028		19		8		1,476		1,503	2,377		64		1,739	619	506	686	11,879	5,836		17,715
2009	33	795		1,299	5,950		5,983	2,094		8		7		1,304		1,319	2,003		50		1,274	962	392	521	9,701	4,896		14,598
2010	49	21		1,052	2,620		2,669	1,073		5		6		903		915	1,583		83		842	205	324	595	5,500	2,787		8,287
2011	16	305		1,906	6,113		6,129	2,211		9		11		933		954	1,820		63		905	1,052	211	442	9,127	4,659		13,786
2012	3	198		841	1,419		1,423	1,039						594		594	570		113		1,273	492	437	343	3,815	2,468		6,283
02-04年の平均	173	2,008		1,090	4,372		4,545	3,098		121		9		1,187		1,317	2,371		92		772	173	236	294	8,015	4,882		12,897

※国際水産資源研究所による推定値。

※日本の未成魚・成魚の区分については、体重の場合、30kg未満=未成魚、30kg以上=成魚と区分、銘柄の場合、“ヨコワ”と“メジ”は未成魚で、“マグロ”や“シビ”は成魚と区分。

14

未成魚の定義が変わった場合の影響(日本の漁獲量)

トン

年	未成魚		成魚	合計
	30kg未満	30kg以上		
2002	9,309	741	4,136	14,186
2003	7,951	262	2,193	10,407
2004	6,785	1,079	6,235	14,099
2005	14,796	755	6,116	21,668
2006	9,828	534	3,817	14,178
2007	8,515	995	5,196	14,706
2008	11,879	1,142	4,694	17,715
2009	9,701	689	4,207	14,598
2010	5,500	637	2,150	8,287
2011	9,127	1,256	3,403	13,786
2012	3,815	508	1,960	6,283

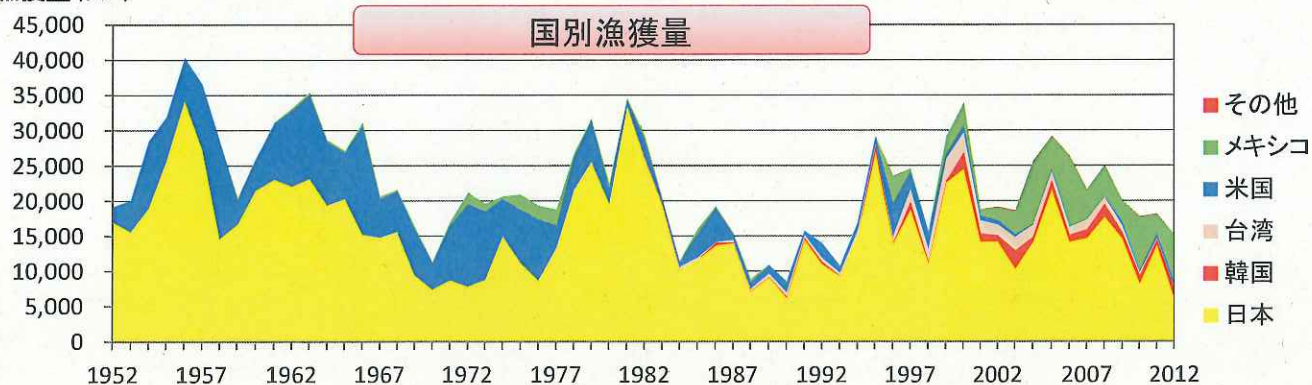
※国際水産資源研究所による推定値。

※30kg以上の未成魚=3歳魚の80%、4歳魚の50%として計算。

15

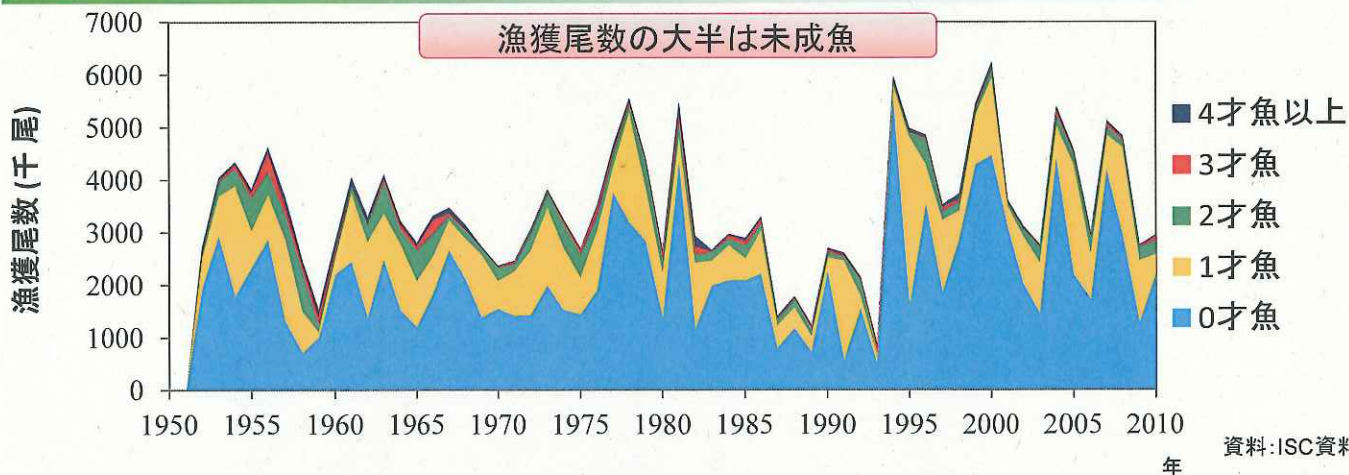
太平洋クロマグロの国別・漁法別漁獲状況

漁獲量(トン)

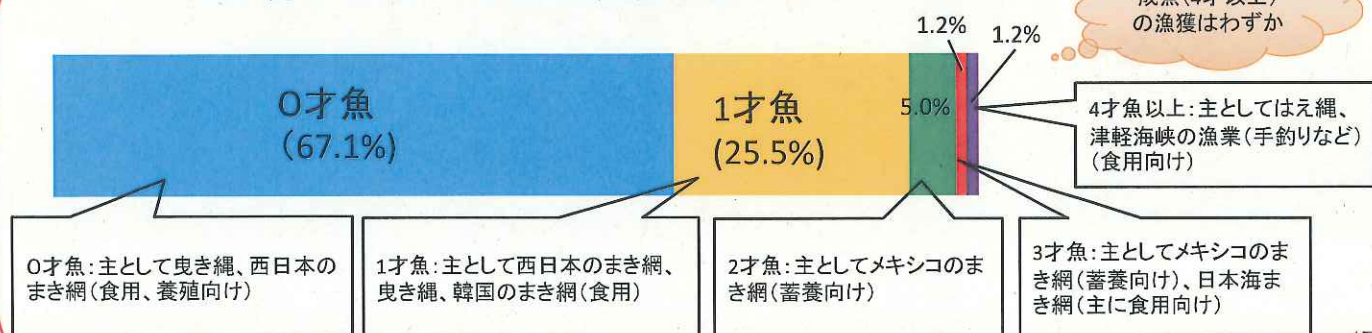


資料:ISC資料 16

太平洋クロマグロの年齢別漁獲状況

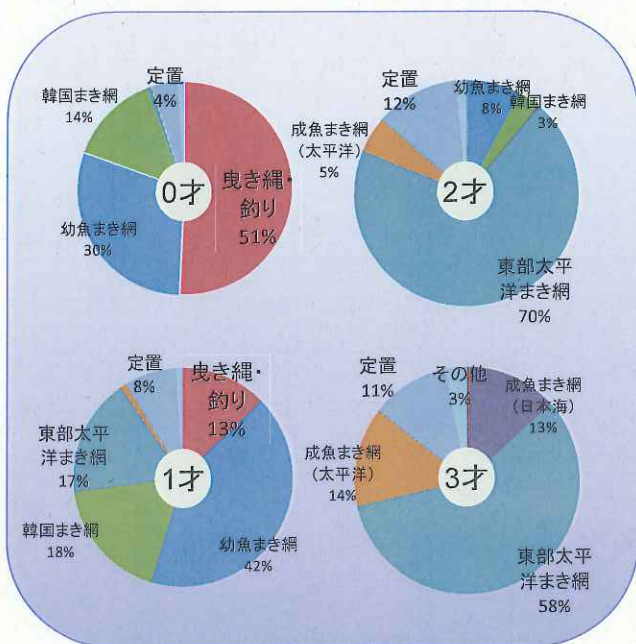


太平洋クロマグロ年齢別漁獲尾数割合 (2001-2010年の平均)



太平洋クロマグロの未成魚の漁獲状況(詳細)

未成魚の年齢別漁獲尾数割合
(2000～2010年の平均)



曳き縄による漁獲尾数の推移

単位:1000尾



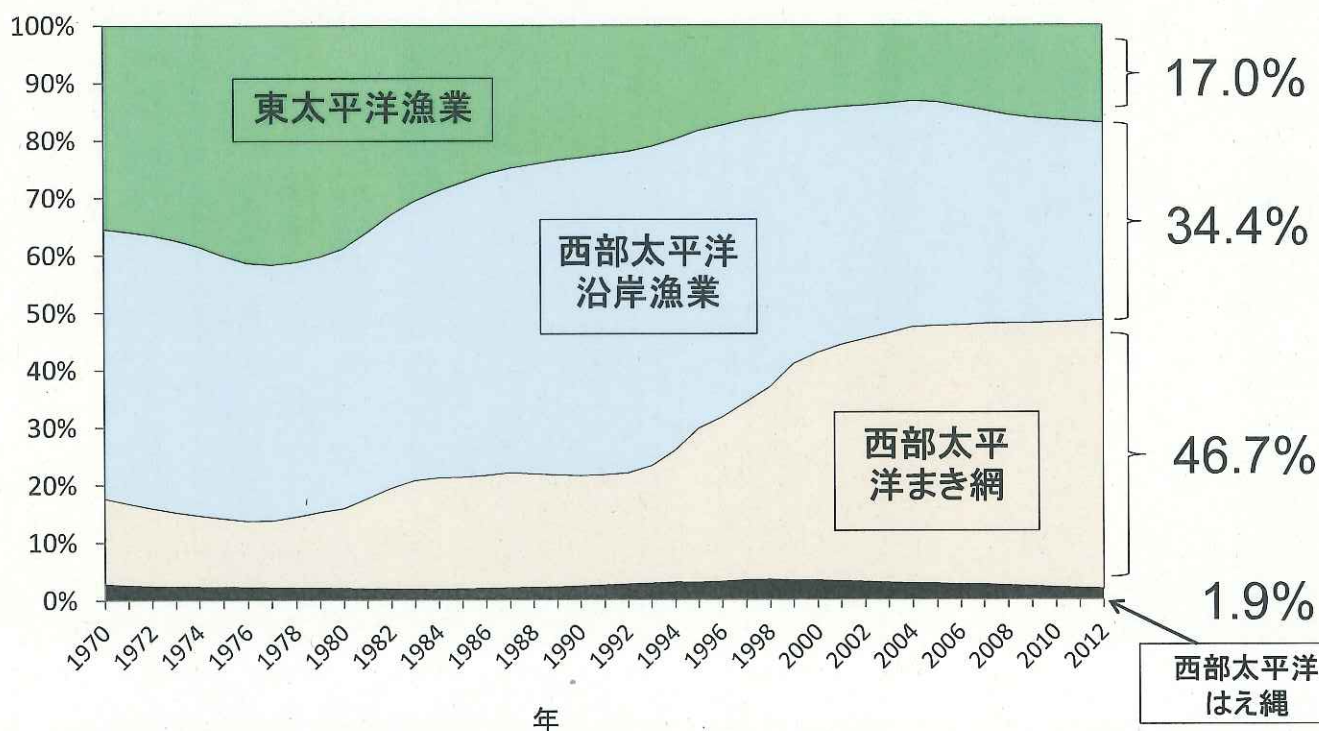
注1: 養殖向けは、1998年以降のデータのみ

注2: 2011年及び2012年のデータは暫定値

注3: 養殖向け漁獲尾数には、漁獲され、活け込み前に死亡したと推定される尾数を含む。

18

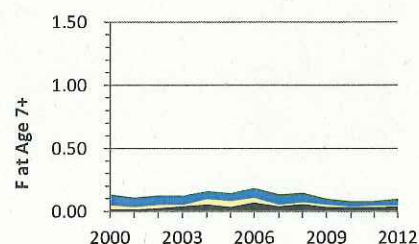
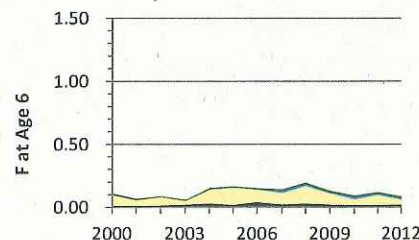
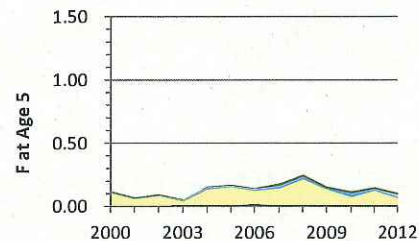
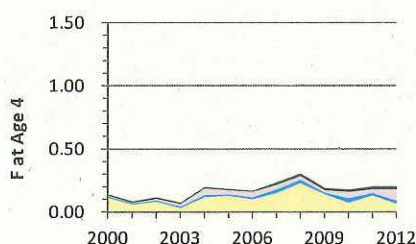
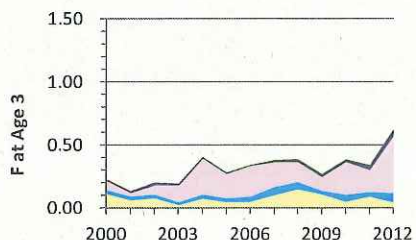
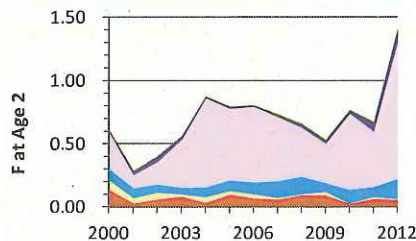
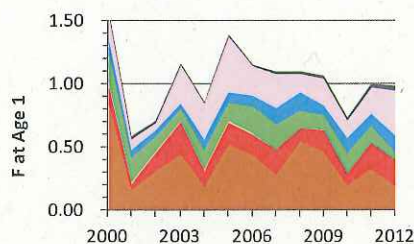
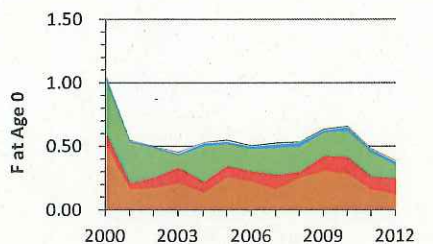
各漁業が太平洋クロマグロ親魚量に与えるインパクト



19

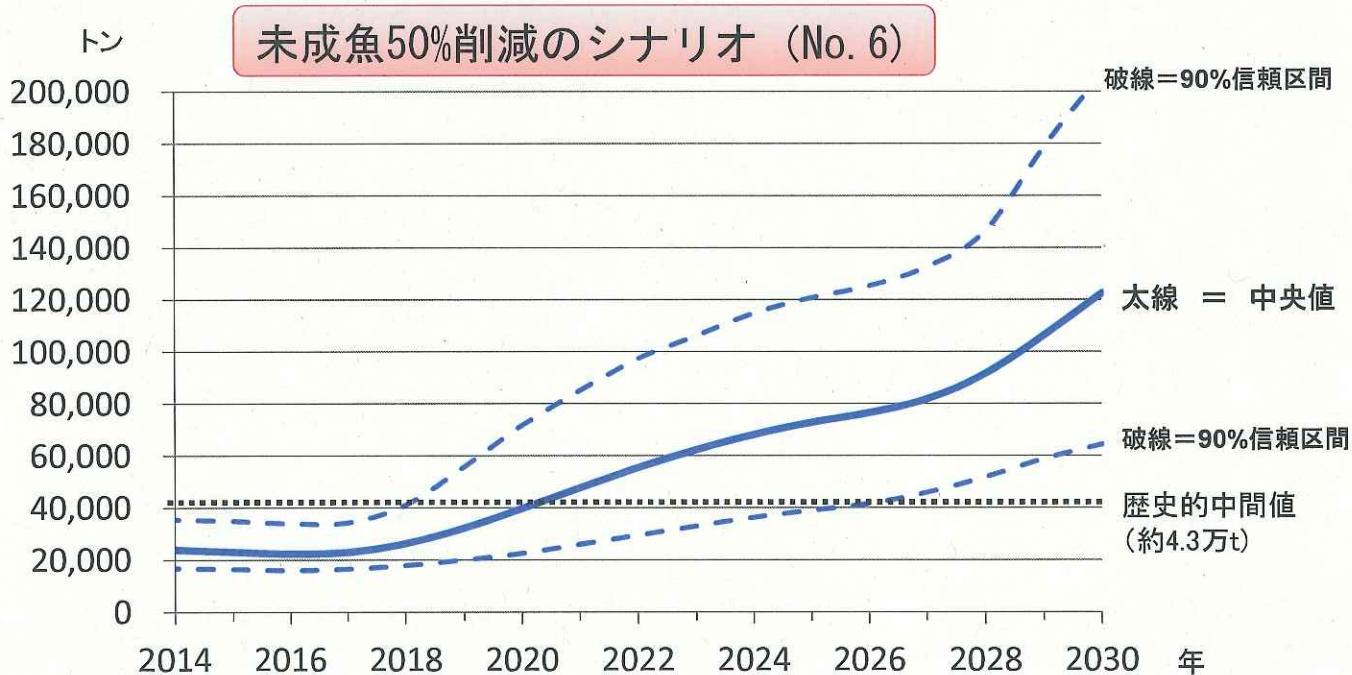
漁業種類別の漁獲死亡率

- その他(津軽海峡漁業など)
- 東部太平洋まき網
- 定置網
- 成魚まき網(山旋+北旋)
- 東シナ海まき網(韓国)
- 東シナ海まき網(日本)
- 東部太平洋遊漁
- 台湾はえ縄
- 曳縄・釣り
- 東シナ海まき網(韓国)
- 日本はえ縄



20

親魚資源量の将来予測 (参考)



・ 加入レベルは、当初10年間は80年代の低レベル、その後は過去平均レベルを想定。

今後の国際交渉スケジュール

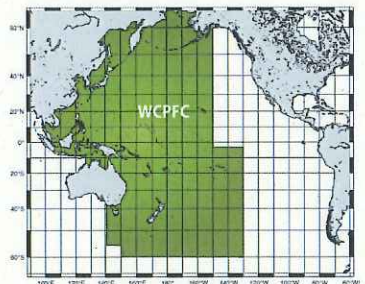
		2014年	2015年	2016年
WCPFC (太平洋クロマグロ)		・2月末 ISCによる資源評価更新 ・7月 ISC ・9月 北小委員会 保存管理措置見直し案議論 ・12月 年次会合 保存管理措置を採択	・ISC ・北小委員会 ・年次会合	・ISCによる資源評価更新 ・北小委員会 ・年次会合
参考	IATTC (東部太平洋)	・5月 科学委員会 ・7月 年次会合 新たな漁獲枠設定	・科学委員会 ・年次会合	・科学委員会 ・年次会合
	ICCAT (大西洋クロマグロ)	・新たな漁獲枠設定		
	CITES (絶滅危惧種)		・9月頃 提案締切	第17回締約国会合 (南アフリカ)

22

現在のWCPFC及びIATTCの管理措置

■2013年のWCPFC会合で採択された保存管理措置の概要 (2014年、2015年の措置)

- 各国は、クロマグロの漁獲努力量(操業隻数・日数等)を、沿岸の零細漁業を含め、2002～2004年水準よりも削減
- 各国(韓国を含む)は、上記の実施に際し、未成魚(0-3才)の漁獲量を2002～2004年水準よりも最低15%削減
- 各国は、加入のモニタリングを強化・加入が悪い場合の緊急ルールを2014年中の作成
- 2014年2月の資源評価結果を踏まえ、2015年以降に未成魚漁獲の更なる削減



■2013年のIATTC会合で採択された保存管理措置の概要 (2014年の措置)

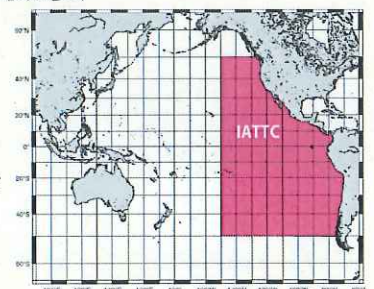
- 2014年の漁獲枠5,000トン(我が国漁船による漁獲実績なし)

※現行の保存管理措置

2012年、2013年の2年間の合計で漁獲枠10,000トン
【メキシコの平均漁獲実績】2002-2004年: 4,600トン

※2012年の漁獲実績6,600トン
(2013年の残枠3,400トン)

※2015年以降の措置については、2013年のWCPFC年次会合で採択された措置、最新の資源状況等を考慮し、2014年に検討される予定



これまで我が国が導入してきた管理措置

(1) 総括表

			措置の内容	2010年度 (22年度)	2011年度 (23年度)	2012年度 (24年度)	2013年度 (25年度)	2014年度 (26年度)
漁業管理	沿岸漁業	定置漁業	定置漁業の免許数抑制	10年1月				
			届出制移行、漁獲実績報告の義務化		11年7月～(日本海・九州西)、12年7月～(太平洋、瀬戸内海)			
		曳き網漁業等の自由漁業	承認制移行、漁獲実績報告の義務化				14年4月～(全海区)	
	沖合漁業	まき網漁業の未成魚管理(九州西・日本海及び太平洋)			5,000トン/年 11年4月			4,250トン(2014年)
		まき網漁業の成魚管理(日本海)			2,000トン/年 11年4月			
	養殖業	クロマグロ養殖場の登録制、養殖実績報告の義務化		11年1月				
				11年1月～12月	12年1月～3月 (以降、毎年度同様に実施)			
		養殖実績の公表						
		養殖場拡大防止の大臣指示				12年10月		
輸入管理	韓国産クロマグロ	輸入情報収集		10年1月				
					11年1月			
	メキシコ産クロマグロ	輸入情報収集			11年2月			
						11年9月		

24

(2) 沖合漁業の管理強化(大中型まき網漁業)

WCPFCの保存管理措置に基づいて実施しているもの

○未成魚(30kg未満)

九州西・日本海及び太平洋における大中型まき網漁業による年間の総漁獲量を以下の数量未満に制限。

2011～2013年 : **5,000トン未満**(05-09年比約22%削減)

2014年 : **4,250トン未満**(05-09年比約34%削減)

【平均漁獲量】

2002-04年平均 : 5,000トン

2005-09年平均 : 6,435トン

【漁獲実績】

2011年実績 : 4,254トン

2012年実績 : 3,234トン

2013年実績 : 1,649トン

WCPFCの保存管理措置とは別に追加的に実施しているもの

○成魚(30kg以上)

日本海における大中型まき網漁業による産卵期(6～8月)の総漁獲量を**2,000トン未満**に制限。
(05-09年比約13%削減)

【平均漁獲量】

2002-04年平均 : 1,100トン

2005-09年平均 : 2,300トン

【漁獲実績】

2011年実績 : 1,796トン

2012年実績 : 702トン

2013年実績 : 1,560トン

25

(3)沿岸漁業の管理

曳き縄漁業等の自由漁業の届出制移行、漁獲実績報告の義務化
(2011年4月から順次実施)

- 動力漁船を使用してクロマグロをとることを目的とする漁業を営む者を対象に届出制移行、漁獲実績(水揚げ市場、漁業の方法、操業海域、漁獲量(鮮魚・養殖用種苗の別))の報告を義務付け
【法的根拠：漁業法(広域漁業調整委員会指示)】

広域漁業調整委員会の海域区分

日本海・九州西(2011年4月から実施)

瀬戸内海(2012年4月から実施)

太平洋(2012年4月から実施)

定置漁業の免許数抑制
(2010年1月から実施)

- クロマグロを主たる漁獲物とする定置漁業の免許数の抑制等
【法的根拠：漁業法】

農林水産大臣から各都道府県知事に指示

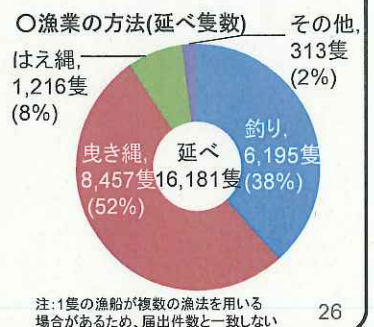
全海域における沿岸クロマグロ漁業の届出状況

○届出件数(船籍別)

北海道	131	富山	54	山口	699
青森	443	石川	741	徳島	250
宮城	7	福井	386	愛媛	62
秋田	83	静岡	528	高知	1,171
山形	91	愛知	1	福岡	597
福島	124	三重	1,057	佐賀	37
茨城	324	京都	269	長崎	1,917
千葉	464	兵庫	232	熊本	54
東京	533	和歌山	1,151	大分	58
神奈川	126	鳥取	592	宮崎	530
新潟	68	島根	101	鹿児島	260
			沖縄	3	
			合計	13,144	

注：船籍別に計数しているため、
昨年の届出件数と一致しない

(2013年5月31日現在)



(4)沿岸漁業の管理強化

現在

日本海・九州西広域漁業調整委員会

自由漁業(曳き縄漁業等)に届出制を導入
漁獲実績報告の義務化
(平成23年4月から順次実施)

沿岸クロマグロ漁業
の実態把握(漁獲量、
漁法、水揚げ場所、操業
海域、トン数階層等)

広域漁業調整委員会の海域区分

太平洋広域漁業調整委員会

瀬戸内海広域漁業調整委員会

平成26年4月1日以降

届出制から承認制へ移行
広域漁業調整委員会の指示に
基づき隻数制限を導入

沿岸クロマグロ漁業
の管理体制の強化

対象漁業、提出書類及び漁獲実績報告書は基本的に届出制と同様【法的根拠：漁業法(広域漁業調整委員会指示)】

(5) 養殖業の管理

クロマグロ養殖の実績報告の義務化

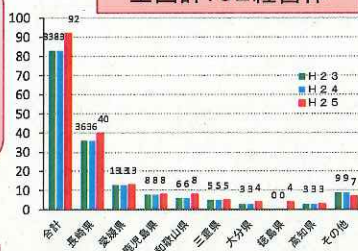
- クロマグロ養殖業者に対して、国が養殖実績（養殖施設の設置状況、種苗の入手先、活込み状況、移送状況及び出荷状況）の報告を義務付け

暦年毎にとりまとめ、2011年分から公表（毎年3月）

全国のクロマグロ養殖場 全国計：147漁場

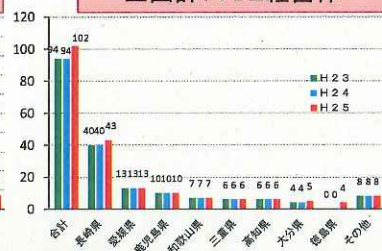


経営体の数 全国計：92経営体



注1：個人にあっては住所、法人にあっては本社の所在地
注2：その他は、東京都、島根県、山口県、佐賀県、熊本県

県別経営体の数(のべ数) 全国計：102経営体



注1：府県内にクロマグロ養殖場を有する経営体数を計上
注2：1養殖業者が複数の府県で養殖を行っている場合はそれぞれの府県で重複して計上
注3：その他は、京都府、島根県、山口県、佐賀県、熊本県、宮崎県、沖縄県

クロマグロ養殖の管理強化 に関する大臣指示

2012年10月26日以降、

2012年10月26日発出

- 各県の1年当たりの天然種苗の活込尾数が2011年から増加するような養殖漁場の新たな設定を行わないこと。
- 生け簀の規模拡大により各県の1年当たりの天然種苗の活込尾数が2011年より増加することのないよう、漁業権に生け簀の台数等に係る制限・条件を付けること。

* 人工種苗向けの漁場は、上記指示の適用外

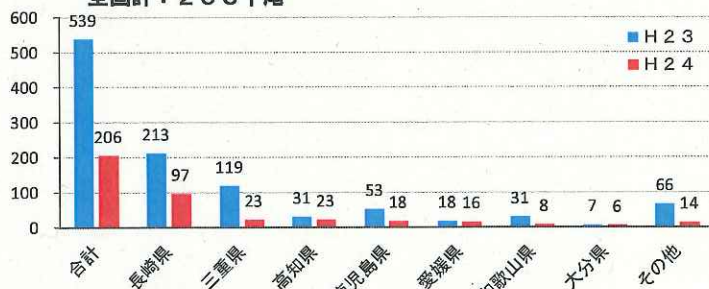
28

(6) クロマグロ養殖の現状

○種苗活込み数

全国計：474千尾（2012年）

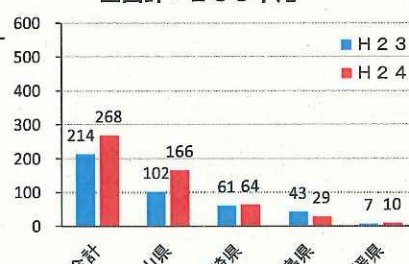
うち天然種苗
全国計：206千尾



注1：その他とは、京都府、山口県、佐賀県、熊本県
注2：「H24」合計値の内訳は、奥きり162千尾、旋網31千尾、その他3千尾

※活込んだ種苗は、数年の
養殖期間を経た後に出荷。

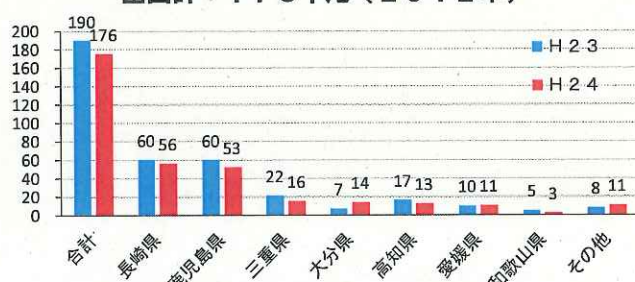
うち人工種苗
全国計：268千尾



注：人工種苗については陸上施設で種苗生産され、海面の養殖場に初めて活け込まれた数であり、養殖用種苗として取り込まれる前に海面の養殖場で死亡するものを含む

○出荷尾数

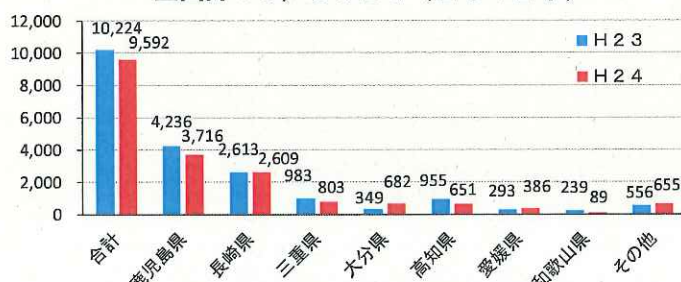
全国計：176千尾（2012年）



注1：その他とは、京都府、山口県、熊本県、沖縄県
注2：「H24」合計値の内訳は、天然種苗由来168千尾、人工種苗由来7千尾

○出荷重量

全国計：9,592 t（2012年）



注1：その他とは、京都府、山口県、熊本県、沖縄県
注2：「H24」合計値の内訳は、天然種苗由来9,346t、人工種苗由来246t

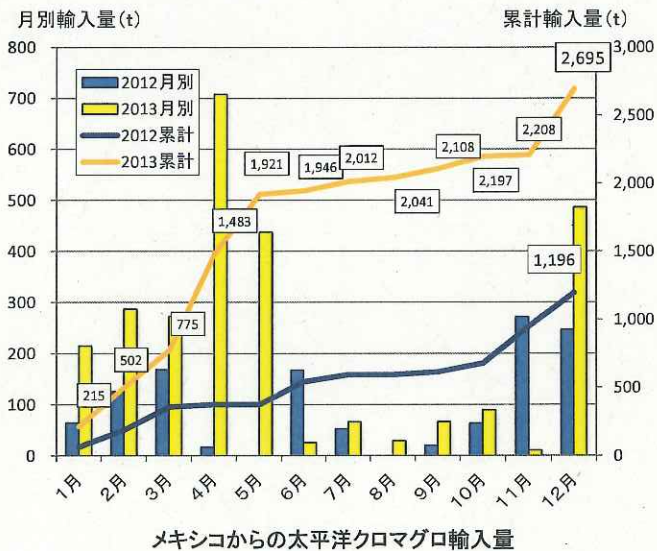
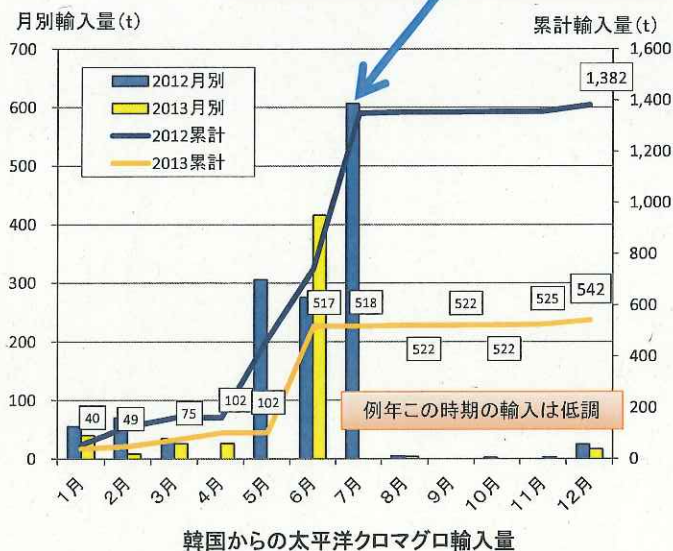
29

(7) 太平洋クロマグロの輸入情報管理

- 「まぐろ法」に基づき、2010年より国内の流通業者(輸入業者、卸売業者)から韓国産及びメキシコ産の太平洋クロマグロの輸入情報を収集する取組みを実施

輸入急増

- 韓国政府に漁獲抑制を要請
- 国内流通関係者に輸入急増を注意喚起



注: まぐろ法に基づく報告徴収により作成2013年12月末現在